

## 彙報

### 相愛大学総合研究センター研究プロジェクト活動報告

相愛大学総合研究センターでは、学内の様々な分野の教員の専門的知識を活用し、相互の交流を活性化することを目的に、共同研究プロジェクトを実施している。平成24年度からの3年間は「日本における諸学問の近代史」をテーマに共同研究を行い、近代の学問が西洋の学問の移入から始まり、固有の問題と取り組みながら自立してゆく過程を確かめてきた。その成果は平成28年3月発行の「総合研究センター報告書 近代化と学問」にまとめられている。

だが、西洋文化の衝撃を受け止め、近代化への対応を迫られたのは学問の領域に限らない。そこで、昨年度からは、「日本の近代－模倣と創造－」をテーマとし、学問に限定せず、近代日本の文化が確立する過程を多面的に明らかにすることを試みている。研究会は学内の教員を主要なメンバーとして学外からの講師も招聘し、学内外から参加者を募った。その成果の大部分を年度末の公開講座で紹介する予定であるが、第1回から第5回までの研究会の概要を報告する。

#### 第1回

報告者：山下昇

(相愛大学共通教育センター教授)

テーマ：米作家フォークナーと近現代日本文学  
(芥川、太宰、村上春樹)

日時：2016年6月30日(木)

午後1時20分～午後2時30分

場所：相愛大学3号館135教室

参加者：10名

ウィリアム・フォークナー(1897-1962)と日本文学と言えば、これまでは大江健三郎や中

上健次などの現代作家への影響を考察するのが常であった。だが私がここで試みるのは、そのような後世への影響のみならず、フォークナーと同世代の日本のモダニズム作家芥川龍之介(1892-1927)との手法上の共通性、日本の敗戦後作家太宰治(1909-1948)との主題の共通性などである。フォークナーの『死の床に横たわりて』(1930)、『八月の光』(1932)と芥川の短編「藪の中」(1922)の技法の類似、『響きと怒り』(1929)と太宰の『斜陽』(1947)、『人間失格』(1948)との主題上の共通性をまず検証する。最後に現在活躍中で日本を代表する小説家と言われる村上春樹(1949-)の中期の代表作『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』(1985)と、フォークナーの『エルサレムよ、我もし汝を忘れなば(野生の棕櫚)』(1939)を取り上げ、この作家へのフォークナーの影響と思われるものを考察する。一連の作業を通して明らかにされるのは、フォークナー文学と20世紀日本文学の親近性であり、なぜフォークナーが日本においてこれほど注目をあび、高い評価を受けるのかという理由の一端である。

#### 第2回

報告者：福本康之

(本学非常勤講師／浄土真宗本願寺派  
総合研究所 仏教音楽・儀礼研究室  
室長)

テーマ：西洋音楽を取り入れた日本仏教－近現代日本仏教の挑戦

日時：2016年7月28日(木)

午後1時20分～午後2時30分

場 所：相愛大学 3 号館 135 教室

参加者：16 名

日本の近代仏教界は、明治維新政府による欧化政策のもとで、さまざまな面で変革を迫られてきた。それは、仏教においては欠くことのできない、儀礼などの表象文化面においても例外ではなかった。浄土真宗本願寺派の法要において、今日西洋音楽の要素が見られることも、欧化政策の結果として日本社会が西洋化したことに鑑みれば、一見当然のことように思われる。しかし、社会の西洋化は、そのまま表象文化の西洋化をもたらすとは限らない。それは、同じ伝統仏教界を見渡しても、西洋音楽を積極的に採り入れている教団は、浄土系教団など少数派にすぎず、さらに表象文化の担い手である各種伝統芸能においても、音楽の西洋化は殆ど見られないのが現実である。ではなぜ、浄土真宗本願寺派をはじめとする浄土系教団では、音楽面の西洋化が進んだのであろうか。本発表は、仏教洋楽と称される音楽文化に焦点を当て、仏教の近代化の一側面を読み解こうとする試みである。

本発表では、まず史料に基づき、仏教洋楽の歴史的な変遷を概観し、音楽そのものの様式や技巧面などの変化を紹介すると同時に、受容の担い手が僧侶ではなく、信者（門信徒）であること、そして仏教の中心たる法要などの儀礼の現場ではなく、洋楽が信者団体の教化活動のなかで受容されてきたことを明らかにした。その上で、伝統的な音楽（声明・雅楽）で構成される法要において、特に時代が進むにつれ、信者の積極的な参加を促すためには、対象の宗教的音楽言語が西洋化されている事実が無視できない＝伝統的な音楽では法要への求心力が保持できない状況であることを指摘した。そして発表者は、西洋近代化という状況の変化が特定分野

の表象文化面で起こる場合、それは単に文化の内容だけではなく、その担い手である層とその受容者である層の力学が大きく影響していると結論づけた。

### 第 3 回

報告者：岩口撰子

（相愛大学人間発達学部教授）

テーマ：幼児歌曲における時代と歌の旋律性  
－わらべうたと唱歌の旋律の系統

日 時：2016 年 9 月 29 日（木）

午後 1 時 20 分～午後 2 時 30 分

場 所：相愛大学 3 号館 135 教室

参加者：6 名

日本の幼児歌曲は時代的に、わらべうた、唱歌、童謡、それらに含まれない子どもの歌に分類することが可能である。本研究会の前半では、幼児歌曲のジャンルを音楽的に特徴づけるものとして、旋律の基となる音階に注目し、わらべうたの系統と唱歌の系統に分けて論じた。唱歌では、明治の学校音楽教育の中で考案された、西洋音楽の七音長音階の四番目と七番目の音を抜いた四七抜き長音階が多用され西洋音楽がベースであるが、日本古来のわらべうたは、民謡音階や都節音階が多用され、旋律の動きやフレーズ構成でも唱歌とは大きく異なる。唱歌に続く童謡は、音階的にはわらべうたの系統、唱歌の系統いずれもあるが、異種の音階が組み合わせ合ったものも多くみられる。さらに現在、定番の幼児歌曲となっている戦後の歌の中には、唱歌的な四七抜き長音階の歌もある一方、わらべうた的な要素が含まれているものもある。またアニメやテレビなど映像を伴って歌われる幼児の歌の中には、わらべうた的な旋律をもつ曲も少なくないことを指摘した。後半では幼児（5 歳児）は、音階の違う旋律をどのよう

に感じとっているか、発表者の研究について紹介した。具体的には、わらべうたで多用される民謡音階と唱歌で使われる四七抜き長音階のほか、四七抜き短音階、7音長音階、ドリア旋法、ブルースの6つの旋律について、5歳児は旋律の好みはあるか、旋律をどのように感じるか、それらは年齢、男女の別で異なるかを調査したものである。その結果、5歳児は旋律を長調、短調のような大まかな区別だけでなく、小さな差も逃さず記憶して比較することができ、長調、短調の中での種類の違いや今まで聞いたことがある音楽を参照しながら、旋律の性格を言い表すことのできる子が多く認められた。5歳児と比較をした女子大生とでもっとも異なっていたのはブルースで、多くの女子大生が「あやしい」という概念に近い言葉を使ったのに対して、5歳児の特に男児では「楽しい」や「面白くなってくる」などほほ良い印象で捉えていて、5歳児の旋律の好みは、必ずしも「聞き慣れた音階」によるものではないことがわかった。5歳児の段階では、女子大生のように単旋律の好悪を選ぶことは難しいが、そのことは旋律が理解できないことや旋律同士を比較できないことを意味するのではなく、むしろ各音階に対する幼児の発言から旋律への高い感受性が認められたことなど述べた。

#### 第4回

報告者：黒坂俊昭

(相愛大学音楽学部教授)

テーマ：山田耕筰のめざした音楽

日時：2016年10月27日

午後1時20分～午後2時30分

場所：相愛大学3号館135教室

参加者：14名

山田耕筰(1886-1965)は《からたちの花》

や《この道》などの作品で広く知られている。ところでこのような歌曲は歌詞に日本語が用いられているが、音楽自体は西洋近代の調性音楽である。山田は東京音楽学校に在籍していた時代、自身のこういった作品を指して「日本産のドイツ音楽」と称していた。その後ベルリンに留学していた時には、西洋音楽のアカデミックな作品(ドイツ産のドイツ音楽)を学修し、ドイツ音楽の真髄を学ぼうと考えていたようである。

これらの状況から観れば、若き頃、山田は日本語を歌詞とする歌曲と純粋なドイツ音楽の作曲を目指していたと思われる。前者は確かに山田が生涯を通して作り続けた楽種であり、それは山田のライフワークの一つであった。しかし後者は、楽劇や交響詩が作曲されてはいるものの、題材に坪内逍遙や三木露風の作品が取り入れられている。ここに山田は、日本人として馴染むことができない「ドイツ産のドイツ音楽」に代わって、新たな音楽の確立を求めようとした。

その新しい音楽への端緒は、ベルリンから東京に帰る帰途、モスクワで感知された。スクリャービンの《詩曲》を聴いた山田は、そこに「ドイツ産のドイツ音楽」や「日本産のドイツ音楽」を超える独自の音楽の予感を抱いたのである。スクリャービンの音楽から発想を得た山田は、音楽が身体と呼応し、演奏家が自己の心身を一体化させる瞬間を感じ取るような作品を手掛けるようになった。彼自身が「舞踊詩」或いは「舞踊詩劇」と呼ぶその新しい楽種は、これまでの音楽の営みを根幹的に改造するものであり、音楽を身体的運動と協調する芸術へと変貌させる新奇性を有していた。山田が目指した音楽は、まさにこういった西洋音楽のアカデミズムから脱脚した新しい芸術音楽の確立であっ

たのである。ただこの試みは時代を先走り過ぎていたために完成されることはなく、またそれを受け継ぐ作曲家も出現しなかった。

しかし山田が舞踊詩を作曲し始めていた頃（例えば舞踊詩劇《マリア・マグダレーナ》は1916年に作曲されている）からちょうど100年、現在に至って音楽がさまざまな局面で身体と協調する様子が見え始めてきた。ここに山田のめざした音楽がようやく実現される時が来たように思われる。

## 第5回

報告者：高木学

（相愛大学人文学部准教授）

テーマ：2000年代のアニメと若者 — アニメにおける定型と変化 —

日時：2016年11月24日

午後1時20分～午後2時30分

場所：相愛大学3号館135教室

参加者：8名

日本のアニメ作品は、新しい日本文化として注目が高まっている。その人気の傾向は年々変化しており、単に動画作成の技術や作品のメッセージ内容だけでなく、社会情勢や若者の意識の変化などを色濃く反映している。本講では2000年以降のアニメで人気となった2つの潮流に着目し、その作品の特徴と当時の世相・風潮との関連性をした。

2000年以降のアニメ業界で注目すべき潮流の一つが「日常系」と呼ばれる、美少女キャラの日常や会話を描く作品群である。日常系の特徴は、かわいいキャラクターが複数登場し、なおかつ、物語内で男女の恋愛や個人の成長など大きな出来事が描かれないという点にある。この流れは、ゲーム業界で物語性の低い育成や収

集のゲームが人気となり、また動画投稿サイトでは内面を持たない容姿と声だけのキャラクターが支持されている状況と軌を一にする。視聴者・ファンにとって壮大な物語の需要が相対的に低下している現れといえる。

これの背景には、娯楽作品に求める要素が、勝利や恋愛成就によるカタルシスやキャラクターへの感情移入ではなく、成長しないキャラクターの不変性・安心感や、見守る・愛でることによる癒しなど、傍観者としての満足感を得たいという方向にシフトしてきているためといえる。

もう一点の注目すべき潮流として、「残念」な特徴を持つキャラクターの人气が高まっている点である。一見、美男子・美少女だが、オタク、妄想癖、毒舌など大きな欠点を持ちつつも、友人たちに許容されているというキャラクターが、様々なアニメ作品に登場するようになってきている。

この「残念」なキャラの背景には、「空気を読む」ことが求められ、「不寛容」が広がりつつある日本社会で、自由気ままに我が道を行く「残念」なキャラクターたちの好感度が高まっているという事情がある。

さらに、こうしたアニメの人気の変化は、急に立ち現れてきたのではなく、時代ごとに一部を継承しつつ、一部を改変していくことで新しい人気を勝ち得てきたと考えられる。70年代の「機動戦士ガンダム」、90年代の「新世紀エヴァンゲリオン」、2000年代の「日常系」、2010年代の「残念なキャラ」、これら4つの人気作品を比較分析すると「世界観・状況」「仲間との調和」「成長と変化」の3点を軸に、定型の模倣／継承と新たなる変革を成し遂げていることを見て取ることできた。

相愛大学 主催

食と防災シンポジウム 2016

「備えてまっか〜！まさかの時の食V」

### 【はじめに】

いつ起こるか分からない災害から個人や家族、地域を守るためには、私たち一人ひとりが、災害に対する知識を深め、備えを行っておくことが必要である。相愛大学人間発達学部発達栄養学科では2012年から産官学連携事業の一環として、9月の「防災月間」に食と防災の視点から、自助（個人）・共助（地域や大学など）・公助（行政、病院）の必要性の理解を深めるためにシンポジウムを実施している。それぞれの立場で日頃の備えを見直し具体的な取り組みが実践できるように、大阪府民、食の専門家ならびに大学生を対象にシンポジウムを企画している。今日、大学は「共助」の立場からも広く地域との連携・支援を考えていくことが益々重要でそのための多様な取り組みが望まれている。

発達栄養学科では、2013年度からシンポジウムの一環として学科展示を実施し、管理栄養士養成大学として、より積極的に学生の防災に対する意識や理解を深める取り組みを進めてきた。

本稿では、平成28年度「食と防災シンポジウム」全体の紹介と発達栄養学科の取り組み「若い世代に伝えたい！食と防災Ⅳ」について報告する。

## I 食と防災シンポジウム 実施内容の概要

当日の実施内容は次のとおりである。

- 開催時期（日時）  
平成28年9月2日（金）  
13時20分～16時10分
- 開催場所  
相愛学園本町学舎講堂
- 参加者数  
385名
- 参加者の概要  
一般府民、食生活改善推進員、大阪府・市町村等行政関係者、学生、食品企業等関係者等
- 主催  
相愛大学、大阪府、農林水産省近畿農政局、大阪青山大学、（公社）大阪府栄養士会

**食と防災 シンポジウム2016**  
備えてまっか〜！まさかの時の食V

いつ起こるか分からない災害から個人や家族、地域を守るためには、自らが私たちが一人ひとりが、災害に対する知識を深め、備えを行っておくことが必要です。そこで、9月の「防災月間」に、防災の中で特に「食」の視点から、自助（個人）、共助（地域、大学）、公助（行政、病院）の災害時における必要性の理解を深める機会としてシンポジウムを開催します。

**日時** 平成28年9月2日 13:20～16:10(開場12:30)

**場所** 相愛学園本町学舎講堂 **講演** 13:30～14:30

**定員** 400名 入場無料

**見学コーナー** 12:00～13:00  
16:10～16:30

「阪神・淡路大震災」を体験した  
災害支援活動家  
「JDA-OAT」の活用が  
やっています。

「最近の災害時における  
避難所等の食環境について」  
～被災地支援活動家  
～ 阪本地区等での活動経験から～

**パネルディスカッション**  
14:40～16:10

テーマ **「食の視点で今、もう一度考えよう！自助・共助・公助」**

パネリスト コメンテーター コーディネーター

「誰にとっても役立つ防災準備」  
相愛大学 発達栄養学科  
管理栄養士 阪本 真子

大阪府立総合防災センター  
災害支援活動家  
「JDA-OAT」の活用が  
やっています。 藤原 政雄

「避難所でのよりよい食生活提供に向けた  
行政実務士の役割」  
大阪府立総合防災センター  
災害支援活動家  
「JDA-OAT」の活用が  
やっています。 下浦 佳之

「食と防災」の視点から  
災害支援活動家  
「JDA-OAT」の活用が  
やっています。 太田 美穂

主催 大阪府、農林水産省近畿農政局、相愛大学、大阪青山大学、公益社団法人大阪府栄養士会  
後援 大阪府食生活改善推進協議会、大阪府食生活改善推進員協議会  
協賛 大阪府栄養士会、大阪府健康づくり推進協議会、株式会社ニッパバイオラボ、相和食品株式会社

（作成した広報用チラシ）

## 6. 後援

大阪府食生活改善連絡協議会、大阪市食生活改善推進員協議会

## 7. 協賛

大塚製薬株式会社大阪支店、大阪府焼菓子工業組合、株式会社ニッタバイオラボ、旭松食品株式会社

## 8. 開催内容

## (1) 開会挨拶

大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課 参事

## (2) 第一部：シンポジウム

・講演「最近の災害時における避難所の食環境について」～東日本大震災、関東・東北豪雨災害、熊本地震等での活動経験から～

兵庫県尼崎総合医療センター栄養管栄部管理課 栄養管理部次長兼栄養管理課長

下浦 佳之 氏

## (3) パネルディスカッション

「食の視点でもう一度考えよう 自助・共助・公助」

## ・プレゼンテーションⅠ

「本当に役立つ防災準備」

相愛大学客員教授 坂本 廣子 氏

## ・プレゼンテーションⅡ

「避難所でのよりよい食事提供に向けた行政栄養士の役割」

大阪府健康医療部保険医療室健康づくり課 総括主査 中村 清美 氏

## 【パネリスト】

前掲 坂本 廣子 氏、中村 清美 氏

## 【コメンテーター】

大阪青山大学健康科学部教授、(公社)大阪府栄養士会会長 藤原 政嘉 氏

前掲 下浦 佳之 氏

## 【コーディネーター】

相愛大学人間発達学部教授

総合研究センター長

太田 美穂

## (4) 閉会挨拶

農林水産庁近畿農政局経営・事業支部長

## 【進行】

大阪府健康医療部健康づくり課

## 9. 展示コーナー（12:30～16:20）

## ①「地域と連携した食と防災」

大阪府保健所栄養士

## ②「大阪産ものの紹介」

大阪府環境農林水産部

## ③「見て分かるがってん！防災」

相愛大学客員教授 坂本 廣子 氏

## ④「若い仲間に伝えたい！食と防災Ⅳ」

相愛大学人間発達学部発達栄養学科

## 10. 会場の設営、打ち合わせ、アンケートの実施

当日の会場設営、受付、後片付けなどに相愛大学人間発達学部発達栄養学科の学生（2～3回生）が打ち合わせから参加、終日ボランティアとして活動した。



## 11. 当日の様子

## 【第1部】 講演

「最近の災害時における避難所の食環境について」

～東日本大震災、関東・東北豪雨災害、熊本地震等での活動経験から～



管理栄養士による「JDA-DAT「河村号」での栄養・食生活支援活動を具体的に紹介され、さらに今後の課題と方向性について論点を整理された。【会場の声】それぞれの災害時の問題点、改善点が比較できて大変わかりやすかった。阪神の時のことを東日本で活かし、その問題をさらに熊本で活かしていることが分かった。

## 【第2部】 パネルディスカッション

「食の視点でもう一度考えよう！自助・共助・公助」



平成24年第1回開催から今年で5回目のシンポジウムとなる。毎年行っている参加者へのアンケートから「自助、共助、公助の意味を知っている」との回答数が増えており、今後何を

すべきか具体的に考える機会ととらえ、最後まで熱心に聴講される参加者の姿が印象的であった。

## 【自助の視点から】

「本当に役立つ防災準備」



日頃の生活から心がけるポイントや、生活用品の活用で始められる自助の提案がなされた。「食物アレルギーたすき」の紹介や赤ちゃんからお年寄りまで使える簡単防塵マスクの作り方などの紹介に関心が集まった。【会場の声】自助できてこそその共助があると坂本先生の話からよく理解できた。身近なものでも使い方を知っていれば災害があった時にとっても役立つと実感した、早速とり入れたい。

## 【公助の立場から】

「避難所でのよりよい食事提供に向けた行政栄養士の役割」



大阪府行政管理栄養士として、熊本地震へ派遣された2か月間（5月～6月末）の現場での支援活動の記録を時系列的に紹介された。【会

【場の声】 テレビなどのメディアでは得られない段階を経た取り組みの様子がよくわかり、今後の支援活動の参考になる。聴講した管理栄養士や食生活改善推進員からの感想である。

展示コーナー（12：30～16：20）

【地域と連携した食と防災】



大阪府保健所栄養士

【見て分かるがってん！防災】



相愛大学客員教授 坂本廣子氏

【大阪産ものの紹介】



大阪府環境農林水産部

【協賛企業展示】



大阪焼菓子工業組合：  
防災おやつ「バナナカステラ」の紹介



(株)ニッタバイオラボ：  
ゼラチン、アガーの紹介と災害時の活用法



説明する本学学生



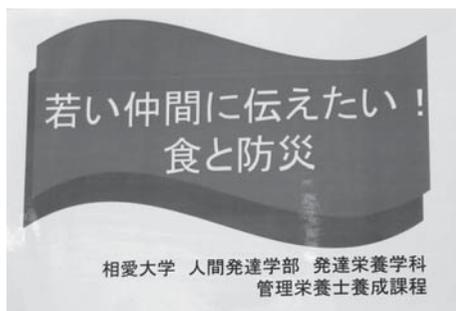
旭松食品(株)：  
災害時にも備蓄しやすい「こうや豆腐」等の紹介



水分補給の方法：  
フルーツと缶果汁を活かしたゼリーを提案。  
エネルギー補給と同時に水分補給源となり、  
かつ食品ロスにも配慮した工夫を紹介

【相愛大学人間発達学部発達栄養学科】

「若い仲間に伝えたい！食と防災Ⅳ」として、  
災害時に活用しやすい水分補給の方法を中心に  
展示を行った。





【会場の声】 私たちにできることがたくさんあることが分かった（同じ世代の参加者より）。若い人にもっと伝わればよい、解説が丁寧で、頑張っていることが伝わってきた。

【見学コーナー】

「熊本地震等で活動した災害支援医療緊急車両『JDA-DAT 河村号』がやってきた」

JDA-DAT 河村号とは、キッチンボックスを搭載した車両（キッチンカー）です。平時は、各都道府県栄養士会での JDA-DAT 活動に利用し、災害時には、JDA-DAT 災害支援医療緊急車両として栄養・食生活支援活動を通じて被災地支援を行っています。

なお災害支援医療緊急車両 JDA-DAT 「河村号」の活動については、(公社) 日本栄養士会ホームページを参照されたい。



(上) JDA-DAT「河村号」に装備されたキッチン設備、備品の展示の様子。  
(下) 栄養・食生活支援活動を通じて被災地支援を行う様子を紹介。



【発達栄養学科の取り組み】 展示資料

【災害時の水分補給】

相成大学 人間発達学部 発達栄養学科

**SOAL**

## 災害時に役立つ水分補給

### 「アガー」で食べる水分補給！

**★アガーってなに？★**

アガーの原材料はカラギーナン(海藻)  
アガーはゼラチンや寒天よりも仕上がりの透明感があり、  
プルッとした食感が特徴。

寒天・・・テンジクサやオコギリなどの海藻  
ゼラチン・・・牛や豚の骨や皮に含まれるコラーゲン

**★アガーを使ったゼリーの作り方★** (各分量は下記参考) **アガーも寒天と同様に常温で固まります。**

- 砂糖を入れる場合は、まずはじめにアガーと砂糖をよく混ぜ合わせる。
- ダマにならないよう 1 を水に溶かしながら加え、加熱し沸騰させる。  
(水を加えず、ジュースのみの場合はジュースに溶かす。)
- 火を止めてから、ジュースなどを加え、型に入れ固まったら完成。

**オレンジゼリー**



オレンジジュース 100cc  
水 100cc  
アガー 2g  
砂糖 2g

**野菜ジュースゼリー**



野菜ジュース 50cc  
水 150cc  
アガー 4g  
砂糖 2g

**お茶ゼリー**



お茶 200cc  
アガー 4g

**みかんゼリー**



みかん缶シロップ 150cc  
水 30cc  
アガー 2g

**白桃ゼリー**



白桃缶シロップ 150cc  
水 30cc  
アガー 2g

\*原液はお好みで調整して下さい。

レシピは一例です。硬さや甘さはお好みで調節できますよ！

## 経口補水液

### 脱水が疑われるときの水分補給

経口補水液とは・・・脱水時に不足している電解質を含み、容易に吸収できるように、塩分(ナトリウム)が少量配合された飲料のこと。

**スポーツドリンクとは何が違うの??**

一般的にスポーツドリンクは経口補水液よりも電解質濃度が低く、糖質濃度が高い組成になっている。  
通常の水分・電解質補給であればスポーツドリンクでOK!

**経口補水液の作り方**

★材料★  
砂糖 20g(大さじ2と1/4)  
食塩 1.5g(小さじ1/4)  
水 500mL

★作り方★  
材料をよく混ぜ合わせる。  
レモンなどを搾って加えると飲みやすくなります。  
(入れすぎると果物の糖分で吸収が悪くなるのでレモン半分程度が目安)

★1日飲用量★  
・学童～成人 1日 500～1000mL  
・幼児(1～6歳) 300～600mL  
・乳児(1歳未満) 30～50mL/kg

| 年齢/性別 | 1日の必要水分量                 |
|-------|--------------------------|
| 新生児   | 400～500mL 125～150mL/kg   |
| 3か月   | 750～850mL 145～160mL/kg   |
| 6か月   | 950～1100mL 130～155mL/kg  |
| 1歳    | 1150～1300mL 120～135mL/kg |
| 2歳    | 1350～1500mL 115～125mL/kg |
| 4歳    | 1600～1800mL 105～115mL/kg |
| 6歳    | 1800～2000mL 95～105mL/kg  |
| 学童    | 80mL/kg                  |
| 成人    | 50mL/kg                  |

**※災害時の食事摂取を円滑にするために・・・**

かむことは大切です。特に、災害時にはみだん食べられない食品を食べることがあります。  
自分の歯の具合を把握しておきましょう。  
意外と知られていませんが義歯の場合、なくしてしまうことが多いです。また、手入れが十分にできないことも予想されます。義歯がない場合でも食べられる食事形態 も日ごろから把握しておくといでしょう。

相成大学 人間発達学部 発達栄養学科  
竹山研究室 (発達栄養学分野)

【災害時の簡単レシピ】

# 食と防災シンポジウム2016

簡単 美味しい 満足

## まさかの時の食 災害時レシピ



長時間停電した冷蔵庫の食材を使用することは衛生面に不安があるため、当レシピでは常温保存ができる缶詰や乾物などをおもに使用しています。

調理器具の使用を最小限にすることで洗い物を減らし、災害時に大切な水の節約ができるよう工夫をしています。

包丁やまな板を使わず簡単に作れる調理方法となっておりますので、ぜひご家庭で作ってみてください。

### 鮭缶とぎょうりの混ぜご飯

- 【材料 2人分】  
 鮭缶 1缶 塩 少々  
 ぎょうり 1本 白ごま 小袋じ1  
 ご飯 お茶碗2杯

【作り方】

- ① ぎょうりは叩いて手でちぎり塩少々をまぶす。
- ② ぎょうりの水分を軽くしぼる。
- ③ ご飯をボールに入れ、①のぎょうりを混ぜ、塩少々で味をつける。
- ④ ③に②を盛り、白ごまを散らす。

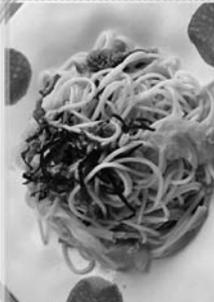


### さば缶とぎょうりの丼

- 【材料 2人分】  
 さば缶 1缶 ぎょうり 1本  
 ご飯 お茶碗2杯 塩 少々

【作り方】

- ① ぎょうりは叩いて手でちぎり塩少々をまぶす。
- ② ぎょうりの水分を軽くしぼる。
- ③ ご飯を鍋に盛り、さば、②のぎょうりを混ぜる。



### ツナ缶と塩昆布のパスタ

- 【材料 2人分】  
 ツナ缶 1/2缶 塩昆布 大さじ2  
 白菜 100g パスタ 140g

【作り方】

- ① 白菜は手でちぎっておく。
- ② 熱湯でパスタを茹で、茹で上げる1分前に①の白菜を入れ、茹で上がりは水気をきる。
- ③ ②をボールに入れ、塩昆布、ツナと和える。(味が足りなければ塩を入れる)
- ④ 器に盛る。



### 魚肉ソーセージとトマトのパスタ

- 【材料 2人分】  
 魚肉ソーセージ 1本 トマト缶 2/3缶  
 コーン缶 大さじ2杯 パスタ 140g  
 塩・こしょう 適量 顆粒コンソメ 小袋じ1/2

【作り方】

- ① 魚肉ソーセージはさみで斜めに切る。
- ② 顆粒コンソメを入れて煮立て、塩・こしょうで味をつける。
- ③ ②に①、コーンを入れて顆粒コンソメ、塩、こしょうで味をつける。
- ④ 熱湯でパスタを茹で、茹であがれば水気をきり③と和える。味を整えて器に盛る。

## 大豆とひじきのさつと煮

【材料 2人分】  
大豆缶 80g ひじき 大さじ2  
キャベツ 50g 味噌だし 少々  
砂糖 小さじ2 薄口醤油 小さじ1

## 【作り方】

- ① ひじきは水で洗い水気をきっておく。
- ② 鍋に水50ccを入れ大豆、①のひじき、手でちぎったキャベツを入れ煮る。
- ③ 弱火で煮り合わせる。



## きゅうりと塩昆布のさつと和え

【材料 2人分】  
きゅうり 1本 塩 少々  
塩昆布 小さじ2

## 【作り方】

- ① きゅうりは叩いて手でちぎり、塩少々をまぶす。
- ② 水分を軽くしぼる。
- ③ ②と塩昆布を和え、弱火で煮る。



## 乾パンとクリームコーンのスープ

【材料 2人分】  
乾パン 40g クリームコーン缶 1/2缶  
乾パンコンソメ 小さじ1/2 塩・こしょう 適量

## 【作り方】

- ① 鍋に水1cupを入れ乾パンコンソメ、クリームコーンを入れて煮る。
- ② 乾パンを細くつぶして入れ、こしょうで味を整える。
- ③ 弱火で煮る。



## 乾パンとブルーのはちみつ和え

【材料 2人分】  
乾パン 40g ドライブルーベリー 6粒  
はちみつ 小さじ2

## 【作り方】

- ① 乾パンを細くつぶしておく。
- ② 弱火で、ブルーベリーを煮るとはちみつを加える。



## 豆乳と魚肉ソーセージのリゾット

【材料 2人分】  
豆乳 1cup 魚肉ソーセージ 1本  
コーン缶 大さじ4 ご飯 お茶碗軽く2杯  
冷凍グリーンピース 大さじ1 塩・こしょう 適量  
顆粒コンソメ 小さじ1/2

## 【作り方】

- ① 魚肉ソーセージは5mm×1cmの幅切りにする。
- ② 鍋に豆乳を煮め、ご飯、①、コーンを入れて煮る。
- ③ 塩・こしょう、顆粒コンソメで味をつける。
- ④ 仕上げにグリーンピースを入れ弱火で煮る。



## さば缶のトマト煮

【材料 2人分】  
さば缶 1缶 塩・こしょう 適量  
トマト缶 1/2缶

## 【作り方】

- ① 鍋にトマトを入れ煮立て、さば缶を入れる。
- ② 塩・こしょうで味を整える。
- ③ 弱火で煮る。



## 高野豆腐の照り焼き

【材料 2人分】  
高野豆腐 2枚 ごま 少々  
薄口醤油 小さじ2 ごま油 小さじ1/2  
みりん 小さじ2 サラダ油 小さじ1

## 【作り方】

- ① 高野豆腐は40度くらいのお湯で戻し洗う。
- ② 水気をしぼり一口大にちぎっておく。
- ③ 醤油とみりんを合わせておく。
- ④ フライパンにサラダ油を入れて②をこんがり焼く。
- ⑤ ③を入れて絡める。
- ⑥ 火を止めてごま油、ごまをまじし弱火で煮る。



## 大豆の照り焼きバーグ

【材料 2人分】  
大豆缶 150g キャベツ 40g  
薄口醤油 小さじ1・1/2 少々  
みりん 小さじ1・1/2 砂糖 小さじ1  
サラダ油 小さじ1

## 【作り方】

- ① 大豆は塩に入れて叩いてつぶし、4等分にしめる。
- ② フライパンにサラダ油を入れて①を入れた面こんがり焼く。
- ③ 醤油、みりんを合わせて②に入れ絡める。
- ④ 弱火でちぎったキャベツを煮り、③を盛り付ける。

## 【さいごに】

平成 24 年にスタートした本シンポジウムは平成 28 年度で 5 回目の開催になる。この間、地震をはじめとして大規模な災害が日本列島に起こり、緊急時の備えについて一般人の関心がますます高まってきた。

例年 400 名前後の参加者を得ているが、当初は「自助・共助・公助」という言葉の意味をなぜ理解する必要があるのかなど、関心も知名度も低かったが、年と共にその言葉や意味を理解して自分の中で役立てたいと思う感想が多く寄せられるようになった。

今年度は特に阪神、東北、熊本で起こった大地震で支援活動を行った下浦氏ならびに熊本地震直後の支援活動を行政管理栄養士である中村氏に栄養・食生活を中心に直近の様子を報告していただいた。管理栄養士をめざす本学学生からも大変有益で興味深い内容で今後の勉強の参考になるとの感想が多かった。展示コーナーや JDA-DAT「川村号」の見学にも多くの方が訪れ、熱心に質問をされる様子が窺えた。解説と実物展示を行い、講演による座学に加えて実践的な防災方法の実際が参加者の理解を一層進めて、「自助・共助・公助」への理解を深める機会になったと考えている。

近年の災害は、想定できない被害の発生と拡大が認められこれまでの経験以上に一人ひとりが防災意識を高めることが重要である。突然やってくる災害に対応するためには、日頃から繰り返し防災意識の刺激と備えを行っておかなければならない。本シンポジウムは、「食と栄養」を中心に実施してきたが、大阪・大阪周辺地域の皆様の命を守ることに少しでもお役にたてることできれば、それは相愛大学にとっても無上の喜びである。



## 【本シンポジウム実行委員】

- ・相愛大学人間発達学部発達栄養学科
- 水野浄子(副学長)      太田美穂(教授)
- 多門隆子(教授)      竹山育子(准教授)
- 角谷 勲(教授)      杉山 文(専任講師)
- 堀野成代(助手)      角田綾香(助手)
- 森川愛美(助手)
- ・大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課
- 江上ひとみ(栄養総括主査)
- 中村 清美(総括主査)
- ・大阪府環境農林水産部流通対策室
- ・農林水産省近畿農政局
- ・大阪青山大学健康科学部
- 藤原政嘉(教授・(公社)大阪栄養士会会長)

(文責 総合研究センター長 太田美穂)

平成 28 年度相愛大学公開講座

## 人文学の御堂筋

総合研究センターでは、本学各部局における学術的活動に対し協力支援を行っている。そのひとつとして本年度は人文学部の主催する公開講座を後援した。以下、開催場所、各講座の日程、講師、テーマ、要旨などを掲載し報告する。

場所：相愛大学 本町学舎 F604 教室

なお各講座とも開催時間は午後 2 時から午後 4 時まで。

### 第 1 回

5 月 28 日 (土) 教授 呉谷充利

#### 「小出楯重と大阪」

小出楯重の出世作『N の家族』は生活感を漂わせるこの家族の肖像を重厚な作風のなかに描く。絵は現在岡山県倉敷の大原美術館に飾られている。かれは明治二十年 (1887) 大阪の島之内に生まれ、昭和六年 (1931) 当地に没している。東京美術学校の日本画科から転科し待望の西洋画科に入ったかれは 1921 年渡仏し西洋絵画を直に学ぶ。文展に出品するも落選のみを数えたこの画家に転機が訪れる。大正八年奈良の『江戸三』で小出楯重と出会った広津和郎はかれのアトリエを訪ね、『N の家族』を目にしたのである。広津はこの作品の二科展への出展を勧める。

文展の創設に尽力したのが黒田清輝であり、第一回文展が明治四十年 (1907) に開催される。黒田清輝は西洋近代絵画の修得者であり、外光派と呼ばれ、画のコンポジションをいう。

これに対し、小出楯重は自身の西洋画の研鑽において、まず「西洋の伝統と古格とその起る処の生活に触れなければならない」とする。われわれは画にたいする根本の違いをここに見る。一言でいえば美しいコンポジションの画と生活に根をもつ画の美である。

二科展は文展に反発して新たに開かれた展覧会であり、梅原龍三郎、坂本繁二郎、津田青楓等が名を連ねている。『N の家族』はみごとに二科展入選を果たし樗牛章を受章する。この小出楯重の画の根本を支えたものが大阪人の生活感覚に見る精神性である。かれは「要するに、よくこの世界を理解すると云ふ事は、よく観察しよく写実しなければ油絵は成立って行き難いものである。」という (『アトリエ』昭和三年五月号)。

現実の徹底的な観察と写実というかれの画の方法はまさに商の経済に成立する大阪人の精神に重なる。絵画が絵画以前のもう一つの世界に連なるこの芸術の有り様はまさにロマン・ロランの『ジャン・クリストフ』の一節を彷彿させる。

「彼はまどろみに落ちていくような気がした……急に、夕闇の中でゴットフリートが歌い出した。彼はよわい、おぼろげな、いわば内面の声で歌った。二十歩はなれていればその歌は聞こえなかったであろう。だがその歌には心を感動させる真実さがあった。心の思いがそのまま声になり歌になっているふうであった。」(ロマン・ロラン全集 1『ジャン・クリストフ』片山敏彦訳 みすず書房 1989) 一行商人にすぎないゴットフリートの歌はそれを生む生の真のあり様に届く。

谷崎潤一郎は小出楯重について「何んにしても、大阪人の特色と、芸術家の天稟とが、あのくらい巧く調和されていた人はなかった。あれ

こそは真に郷土の生んだ芸術家だという感じがした。」(篠田一士編『谷崎潤一郎随筆集』所収「私の見た大阪及び大阪人」と書きながら、小出楯重の計報にたいする当時の新聞の扱いが思いのほか簡略であったことについて「この特異なる郷土の芸術家を惜しむ記事などがもう少し出てほしいと思われるほど淋しかった。」と自らの心中を述べている。(「同所」注)

一文は谷崎潤一郎をして、言わしめたこの画家への敬意と賛辞であり、大阪の近代にみるこの遺産の継承は云うまでもない。

付言すれば、筆者はさらに江戸と上方の「いき」と「すい」について触れ、その精神性の違いを述べた。

## 第2回

6月25日(土) 教授 片岡尹

「やさしい国際金融の話」

人民元の国際通貨化が話題となった。元はSDRを構成する通貨のひとつに採用された。これは元が国際通貨となる第一歩と考えられている。

国際通貨とは国際決済に使用される通貨の謂いであり、具体的には、周辺国の銀行が中心国の銀行に保有する外貨(中心国通貨)建て預金である。周辺国が輸出し、中心国通貨(すなわち国際通貨)を受取ると預金が増え、輸入すると減る。従来国際通貨の条件として、流動性、調整、信認が挙げられてきた。外貨預金は自由な開設、使用が許されねばならないし、量的に十分に供給されねばならない(流動性)。為替相場は安定し、外国が替取引について突然の規制や制度的変更はあってはならない(信認)。

自国通貨で輸出入の契約をすると為替リスクはないので、為替リスクは外貨建てで輸出入する周辺国に押付けられる。押付けられた周辺国

にヘッジ手段がなければならない。変動相場制では為替リスクが大きいだけに、この要件が重要になる。国際通貨となるためには、言い換えると周辺国が外貨預金を維持するためには、外貨(国際通貨)についてリスクヘッジ手段がなければならない。しかも周辺国が自由に利用できる必要がある。加えて、国際決済は、周辺国が外貨預金を自由に増減させることである。不足すれば外貨を調達し、過剰であれば運用するのも自由でなければならない。中心国の金融市場は自由で無差別、開放的かつ効率的である必要がある。

国際通貨は周辺国が保有する外貨預金であり、資産である。資産を外国に置くのはそのほうが安全であるか、あるいは預金とはいえ実質は負債、つまり国際決済のために預金を保有しているが実際は借入れた外貨を預金しているのである。周辺国の貿易収支は赤字であるが、資本輸入(借入)により外貨預金を維持している。逆に中心国は経常収支は黒字、資本収支は赤字である。この場合、周辺国は預金に不安を感じず、信認が維持される。

他方、中心国は世界経済を成長させる期待と任務を担わされる。中心国は世界の有効需要を拡大させるため、自国市場を解放し、貿易を自由化し、世界から商品を受け入れる。さらには、外貨預金を十分に供給するためには、国際通貨国は貿易赤字のほうが簡便である。中心国は、当初は黒字であっても、時とともに経常収支赤字に陥る。そのため、為替相場は不安定となり、流動性の供給と信認の維持とのジレンマに苦しむことになる。元はどうか。

## 第3回

7月30日(土) 講師 アルスドルフ ヨハン、教授 木下有子

「異文化を知り、自文化を知る」

参加学生（人文学部留学生）：

田静瑩（中国）

丁楠（中国）

トミー（インドネシア）

本講座は「異文化を知り、自文化を知る」というタイトルでの2時間であった。講師が2名、さらに3名の留学生の参加という形で行ったが、これには理由がある。本学がアジア諸国から留学生を受け入れるようになってから数年が経つが、彼（女）らの存在は大きいと日々の授業で強く感じている。様々な文化圏の学生たちが集まった教室は毎日が驚きで詰まっており、世界は広く深く面白いと思う時間である。異文化について、知らなければ「怒り」や「反感」になってしまうものが、知ることによって「理解」に変わる。その時、多文化の人々が共に学ぶことの意義を知ることができる。したがって、日本人講師が他の文化について間接的な知識や情報を話すよりも、異なる文化を背景に持つ教員や学生自身が自分の文化について生の話を発信する方がずっと意味のあることだと考えるに至った。

まず、アメリカ文化を背景に持つ教員アルスドルフが「文化」一般について導入後、アメリカのホットな話を提供した。アメリカのニュースは他の国のものよりも速く詳細に伝わってきていると考えがちであるが、日本にいるとなかなかわからない内容や感覚が披露された。次に、中国からの留学生2名が話をした。一人目の田は「中国人の日常」という題目で、朝食文化や「広場ダンス」なるものを紹介した。2人目の丁は「中国人の日常」の中で特に「高校生の日常」に焦点を絞り、中国の教育——特に、教育の目的や宿題、カリキュラムなど——について詳細に述べた。インドネシアからの留学生

トミーは「インドネシアと黒魔術」というテーマでインドネシアの現実を紹介した。インターネットやソーシャルメディアの普及が著しいインドネシアで黒魔術が日常的に存在していることや黒魔術そのものについての説明がなされた。いずれもそれぞれの国における伝統文化と現在に触れる意味深い内容であった。日本人講師の木下は講座の企画及び立案と当日の総合司会や補足説明などを担当した。

講座最後の質疑応答は、聴衆が発表者に直接疑問を投げ掛け、生の情報を得て納得したり驚いたりする場となった。特に中国の教育に関する質問が活発になされ、日本の教育との相違が浮彫りになった。

本講座へのすべての参加者が、異文化を知ることを通して自文化を再認識できれば、また世界の文化は多様であり、自文化はその多様な文化の一つに過ぎないのであると改めて思うことができれば、この講座の意味はあったと言えよう。

#### 第4回

9月24日（土） 准教授 佐々木隆晃

「お彼岸に想う —親鸞聖人と恵信尼公—」

彼岸とは、迷いの世界である此岸に対する語で、生死の迷いを超えたさりの世界の意である。ただ漠然と「あの世」を望むのではなく、原語である梵語パーラミターが「到彼岸」と訳されるように、彼の岸に到りつつある現在の生涯を意識するものである。毎年春分・秋分の日前後7日間にわたり勤修される仏教行事は、真西に沈む太陽を望みながら、自身の命の行く先を見つめる機会として先人から受け継がれてきた。

現代社会ではすべてにおいて経営感覚が持ち込まれ、損得勘定で物事を判断する傾向があ

る。そのような見方に対して、宗教的意識はその価値観の問題点を指摘することができるといえよう。これは教育とビジネスの違いとも同様なのである。

ビジネスは時間がかからないことを良しとし、教育は時間がかかるものであると指摘する意見がある。教育というのは受けた授業や身につけた内容が、すぐに目に見える効果を発揮するばかりではない特徴があり、自身の見えないところ、どこをどう迂回したのかよくわからないようなやりとりによって成り立っている。

これは社会における自分と他者の関係や、親子・親戚など世代を隔てた人間関係などにも共通するあり方といえよう。仏教ではそれを「縁」や「恩」という教えによって表現してきた。

葬儀の折りにいわれる、「故人が生前たいへんお世話になりました」という挨拶の「生前」とは「死の前」のはずであり、それを生前、すなわち生まれる前と表現しているところに、浄土往生の思想をうかがうことができる。

「死んだらおしまい」などの言葉にみられる、生きていることだけに意味があり、死を人生の敗北のように捉えることは、自身の一生をむなしいものと位置づけてしまうのではないだろうか。

高速道路の渋滞を俯瞰的に見ることができればイライラはいくらかはおさまるであろうように、現在の人生の苦難や行く末を大所高所から眺めることができたなら、少しは悩みの受けとめ方も変わるかもしれない。

自身のいのちのありように思いを致す機会として、お彼岸は先人によって受け継がれてきた。難波の海（大阪湾）に沈む夕日を眺めることのできる大坂の地に築かれたお寺が大坂本願寺である。それを起源とする御堂筋において、

浄土真宗に生き抜いた親鸞聖人とその妻恵信尼公を学ぶ機会を過ごさせていただいた。

## 第5回

10月29日（土） 准教授 西迫成一郎

「人に魅せられる -好意と恋心の心理学-

本講座では、いかなる要因が影響して人が特定の他者に魅力を感じあるいはそれとは異なる感情を持ってしまうのか、またそのような要因が他者への魅力に影響を及ぼす理由について心理学的説明を行った。

人は、その多くが人と親しい関係を持つことでさまざまな喜びを得ているだろう。また、日常生活では人は助け合わなければより良く生活することも難しいだろう。そのため人はより良い人間関係を築くことを切望しており、他者から見て自己が魅力的な存在でありたいと一般的に考える。公開講座では、この他者への魅力をもたらす要因について述べて、またその要因がなぜ魅力をもたらすのかその理由について心理学的に説明した。

具体的内容としては、自己と他者の関係性としての空間的な近接性や態度の類似性、また自己の考えや状況に関する情報を他者に伝える自己開示、さらに自己の印象を管理するために自己の情報を他者に与える自己呈示などについて説明した。次に、これらの要因がなぜ他者への魅力に関連するのかについて、強化理論的な立場や認知的整合性理論からの説明を行った。これらに続けて、恋愛関係についての話にも少しの時間を使った。

以上の講座によって、人生において最も重要なことの一つである対人関係において、受講者の方々のより良い進展につながることを意図した。

## 第6回

2月4日(土) 准教授 荒井 真理亜

「くいだおれ大阪の文学」

本講座では、相愛女学校の卒業生である山崎豊子の『暖簾』を取り上げ、作品の成立と特長について解説した。

昭和32年に発表された『暖簾』は、山崎豊子の処女作である。山崎豊子は昭和19年に毎日新聞大阪本社に入社した。調査部を経て、学芸部に異動し、副部長であった井上靖の指導を受ける。井上靖が退社するときに「君も小説書いてみては——、人間は自分の生いたちと家のことを書けば、誰だって一生に一度は書けるものだよ」<sup>1)</sup>と言われたという。その言葉で一念発起し、「七年がかりで」<sup>2)</sup>書き上げたのが『暖簾』である。『暖簾』は「わが家の周辺を素材にした小説」<sup>3)</sup>だが、「私の家の歴史を書いたのじゃない」<sup>4)</sup>らしい。

『暖簾』は船場の昆布問屋で丁稚からたたき上げ、一人前の大阪商人になった吾平と、その跡を継ぐ次男の孝平が、災害や戦争など数々の苦難を乗り越え、暖簾を守り続ける大河小説である。

大阪の味を代表する昆布を通して、明治・大正・昭和の経済史や食文化の変遷が描かれている。例えば、戦中に吾平を追い詰めた統制経済が、戦後は孝平に商機をもたらす。「昔から大阪の昆布、東京の海苔」と言われていたが、孝平の東京進出が成功するのは、戦中の食糧不足と統制経済で関東の食文化が変わったからであ

る。

山崎豊子は『暖簾』を「人間の金銭欲を追求した小説」<sup>5)</sup>だと述べている。確かに、吾平も孝平も自分たちの生活を「<sup>しんまつ</sup>儉約」して、少しでも金を増やし、商売を大きくしようと尽力する。しかし、金儲けは私利私欲からではない、〈暖簾〉のためである。吾平は「暖簾は商人の命だす」と言って、暖簾を<sup>あきんど</sup>抵当に銀行から金を借りる。〈暖簾〉は信用であり、大阪商人の意地であり、人生哲学だと言ってよい。『暖簾』という小説の魅力は、〈暖簾〉の社会的尊厳を守るために、不屈の精神と創意工夫で時代の荒波を乗り越えていく大阪商人の姿にある。

1) 山崎豊子「産声」(『山崎豊子全作品』第1巻月報、1985年8月25日発行、新潮社)

2) 同上。この言によると、昭和25年に「暖簾」を書き始めたことになる。しかし、井上靖が毎日新聞を退社したのは昭和26年である。

3) 同上。

4) 山崎豊子「“土性っ骨”のある男に惚れる」(『週刊サンケイ』昭和33年8月10日)

5) 山崎豊子「大阪づくし」(『サンデー毎日』昭和33年10月5日～34年1月25日)

平成28年度相愛大学人文学部公開講座

# 人文学の御堂筋

本学発祥の地、近代大阪を象徴する御堂筋は界限に淀屋の屋敷跡や懐徳堂の碑を遺し、芭蕉の客死した辞世の地としても知られています。近代の大阪からさらに歴史の大阪へ。モダニズムの御堂筋から豊かな知の御堂筋へ。本学公開講座「人文学の御堂筋」にご来聴ください！

5月28日(土)

小出楷重と大阪

教授 呉谷 充利



6月25日(土)

やさしい国際金融の話

教授 片岡 尹



7月30日(土)

異文化を知り、  
自文化を知る教授 木下 有子  
講師 アルスドルフ ヨハン

9月24日(土)

お彼岸に想う  
-親鸞聖人と恵信尼公-

准教授 佐々木 隆晃



10月29日(土)

人に魅せられる  
-好意と愛心の心理学-

准教授 西迫 成一郎



2月4日(土)

くいだおれ大阪の文学

准教授 荒井 真理亜



入場は無料です(お申し込み不要)。

当日、満席になり次第締め切らせていただきます。5回以上御出席の方には最終回に修了証をお渡しいたします。

※公共交通機関をご利用ください。※イベントの妨げになると判断する行為を行った場合は、ご退席いただく場合があります。

**場所** 相愛大学 本町学舎 F604教室

地下鉄御堂筋線「本町」駅C階段④出口より徒歩5分

**時間** 14時~16時(受付:13:30)

お問い合わせ先:〒559-0033 大阪市住之江区南港中4-4-1 相愛大学人文学部合同研究室  
TEL:06-6612-6247 E-mail:jinbungakubu@soai.ac.jp



主催:相愛大学人文学部 後援:相愛大学総合研究センター

## 平成 28 年度 科学研究費補助金一覧

## 研究代表

| 課題       | 研究課題                                     | 研究代表者 |             |
|----------|------------------------------------------|-------|-------------|
|          |                                          | 氏名    | 所属・職        |
| 基盤研究 (C) | 音楽経験と知識の度合いに基づく音楽生成システムの利用状況とレベルデザイン     | 橋田 光代 | 音楽学部・講師     |
| 基盤研究 (C) | 幼児教育保育における食育の実践的指導力を評価する指標の構築            | 進藤 容子 | 人間発達学部・教授   |
| 基盤研究 (C) | 保育所保育士による保育ソーシャルワークの可能性と養成教育のあり方に関する研究   | 直島 正樹 | 人間発達学部・准教授  |
| 基盤研究 (C) | 保育者養成課程で保護者支援を実践できる力をもつ保育者を養成する教育方法の研究   | 中西 利恵 | 人間発達学部・教授   |
| 基盤研究 (C) | 児童養護施設に入所する外国につながるのある子どもの支援に関する研究        | 松島 京  | 人間発達学部・准教授  |
| 基盤研究 (C) | 担子菌類に含まれる複合脂質成分の解析と腸管免疫および全身性の免疫賦活作用の検討  | 庄條 愛子 | 人間発達学部・准教授  |
| 基盤研究 (C) | 言語教育における地域語・国語・国際語の関係性に関する比較的研究          | 長谷川精一 | 共通教育センター・教授 |
| 若手研究 (B) | 養護教諭に新時代に対応する高い専門性と実践力をつけるための新科目「養護学」の構築 | 横島三和子 | 人間発達学部・准教授  |

## 研究分担

| 課題       | 研究課題<br>(研究代表者)                                        | 研究分担者 |            |
|----------|--------------------------------------------------------|-------|------------|
|          |                                                        | 氏名    | 所属・職       |
| 基盤研究 (B) | 音楽演奏表情データベース PEDB の拡充とその実践的活用 (関西学院大学・片寄晴弘)            | 橋田 光代 | 音楽学部・講師    |
| 基盤研究 (C) | 日本近代文学と絵画のジャンル横断的交流に関する総合的研究 (東海大学・出口智之)               | 荒井真理重 | 人文学部・准教授   |
| 基盤研究 (C) | 保育者養成課程で保護者支援を実践できる力をもつ保育者を養成する教育方法の研究 (相愛大学・中西利恵)     | 曲田 映世 | 人間発達学部・助教  |
| 基盤研究 (C) | 担子菌類に含まれる複合脂質成分の解析と腸管免疫および全身性の免疫賦活作用の検討 (相愛大学・庄條愛子)    | 水野 淨子 | 人間発達学部・教授  |
| 基盤研究 (C) | 保健室において子供の抱える問題を構造的に可視化する子供理解支援システムの開発 (大阪人間科学大学・岡田雅樹) | 横島三和子 | 人間発達学部・准教授 |

## 平成 28 年度 外部団体よりの受託研究、共同研究及び教育研究奨励寄付金

## 受託研究

| 助成団体 | 研究課題                 | 研究代表者 |         |
|------|----------------------|-------|---------|
|      |                      | 氏名    | 所属・職    |
| 大阪府  | 平成 28 年度栄養表示等リサーチ隊事業 | 古川 和子 | 人間発達・講師 |

## 教育研究奨励寄付金

| 助成団体              | 研究課題                      | 研究代表者 |          |
|-------------------|---------------------------|-------|----------|
|                   |                           | 氏名    | 所属・職     |
| (一般社) 全国栄養士養成施設協会 | 相愛大学学生が行う食育推進キャンペーン       | 多門 隆子 | 人間発達・教授  |
| (一般社) 栄養改善普及会     | 第 12 回みんなで考える朝食教室 (ヨーグルト) | 竹山 育子 | 人間発達・准教授 |